

管理者ガイド

HP Backup and Recovery Manager



© Copyright 2007 Hewlett-Packard
Development Company, L.P. 本書の内容
は、将来予告なしに変更されることがあり
ます。

Microsoft および Windows は、米国
Microsoft Corporation の米国およびその他
国における登録商標です。

HP 製品およびサービスに対する保証は、当
該製品およびサービスに付属の保証規定に
明示的に記載されているものに限られま
す。本書のいかなる内容も、当該保証に新
たに保証を追加するものではありません。
本書に記載されている製品情報は、日本国
内で販売されていないものも含まれてい
る場合があります。本書の内容につきましては
は万全を期しておりますが、本書の技術的
あるいは校正上の誤り、省略に対して責任
を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有
権に関する情報が掲載されています。本書
のいかなる部分も、Hewlett-Packard
Company の書面による承諾なしに複写、複
製、あるいは他言語へ翻訳することはでき
ません。

管理者ガイド

Business PC

初版 2007 年 2 月

製品番号 : 440208-291

このガイドについて



警告！ その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こすおそれがあるという警告事項を表します。



注意： その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こすおそれがあるという注意事項を表します。



注記： 重要な補足情報です。

目次

HP Backup and Recovery Manager 管理者ガイド

| | |
|---|----|
| HP Backup and Recovery Manager のバージョン | 2 |
| Portables (ノートブック製品用) | 2 |
| Desktops (デスクトップ製品用) | 3 |
| バックアップの種類 | 3 |
| リカバリ ポイント | 4 |
| ドライブ全体のバックアップ | 4 |
| ファイルとデータのバックアップ | 4 |
| バックアップの種類別の注意事項 | 4 |
| バージョン間の相違 | 6 |
| インストール | 7 |
| ソフトウェアのオプション | 7 |
| イメージ用のソフトウェアの取得 | 7 |
| 企業環境での導入 | 8 |
| モデルの異なるシステムへの単一バージョンのソフトウェアの導入 | 8 |
| 複数のパーティションでのインストール | 8 |
| ハードディスク ドライブのイメージの再作成 | 8 |
| HP Backup and Recovery Manager の管理 | 9 |
| ポリシーまたはスケジュールの実施 | 10 |
| パスワード | 10 |
| 圧縮 | 11 |
| 暗号化 | 11 |
| 内蔵 F11 ホットキーのサポート | 11 |
| 機能の有効化と無効化 | 11 |
| カスタム オペレーティング システムの再ロード後のマスタ ブート レコード (MBR) のリセット | 11 |
| 通知 | 12 |
| 通知の基本機能 | 12 |
| 通知メッセージの無効化 | 12 |
| バックアップ | 13 |
| オフライン バックアップ | 13 |
| セクタ単位またはファイル単位のバックアップ | 13 |
| 整合性の検証 | 14 |
| バックアップと RAID のサポート | 14 |
| バックアップの保存場所 | 14 |
| 帯域幅の制限 | 14 |
| バックアップのフェールオーバー | 14 |
| ローカル ドライブでのドライブ全体のバックアップ | 14 |
| スケジュール設定されたバックアップ | 14 |

| | |
|--------------------------------|----|
| 手動バックアップ | 15 |
| リカバリ ポイント | 15 |
| コンポーネントの保存 | 15 |
| リカバリ | 16 |
| リカバリ パーティション | 16 |
| Recovery Media Creator | 17 |
| オペレーティング システム | 17 |
| リカバリ メディア | 17 |
| 復元方法 | 18 |
| リカバリ メディアの作成 | 19 |
| リカバリ パーティションの削除 | 19 |
| コンピュータのリカバリ | 20 |
| イメージ全体または個別ファイルの復元 | 21 |
| 個別ファイルの復元 | 23 |
| コンピュータのリカバリ | 27 |
| 復元と名前の重複 | 31 |
| オペレーティング システムの PID | 31 |
| ファイルを復元するためのファイル エクスプローラ | 31 |
| 両方向でのフィルタ | 31 |
| アンインストール | 32 |
| 削除される項目 | 32 |
| アプリケーションのアンインストール | 32 |
| 上級者オプション | 32 |

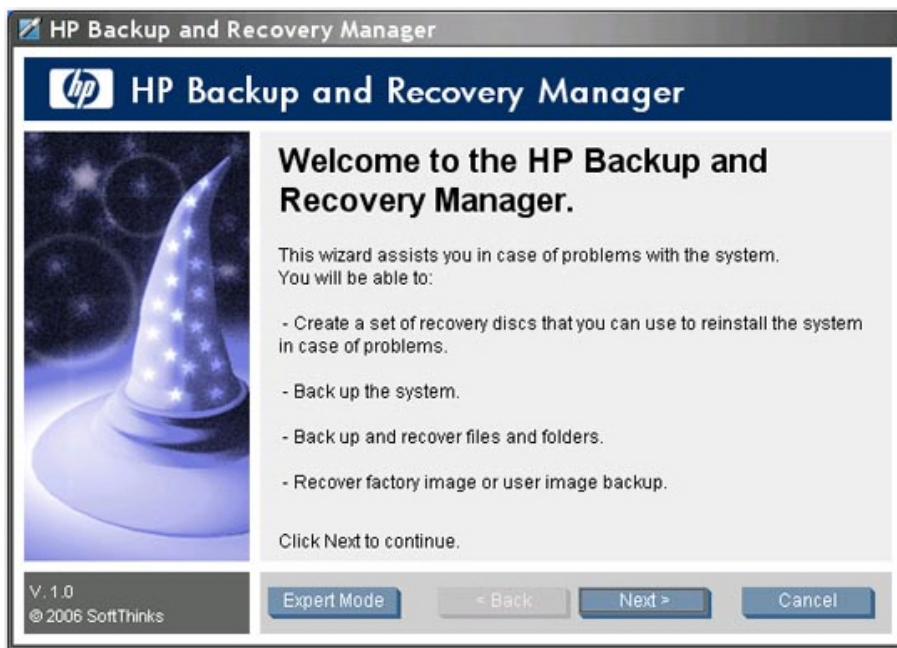
| | |
|----------|----|
| 索引 | 34 |
|----------|----|

HP Backup and Recovery Manager 管理者ガイド



注記： このガイドでは、完全版の HP Backup and Recovery Manager について説明します。機能限定版の HP Backup and Recovery Manager では、一部の機能を使用できません。

HP Backup and Recovery Manager は、オペレーティング システム、すべてのアプリケーション、およびすべてのデータ ファイルのバックアップを作成するための、Windows で動作する多目的に利用可能なアプリケーションです。このアプリケーションを使用すると、コンピュータ上のメインハードディスク ドライブのバックアップと復元ができます。



HP Backup and Recovery Manager の機能は以下のとおりです。

- 指定した間隔で自動的に実行されるようにバックアップをスケジュール設定できます。
- バックアップを手動で開始できます。
- 通常のバックアップとは別に重要なファイルのアーカイブを作成できます。
- リカバリ ポイントおよびファイルバックアップを CD または DVD にコピーできます。

- すべてのデータをネットワークまたはセカンダリ ハードディスク ドライブにコピーできます。
- 外付けの USB デバイス (USB メモリまたは外付けの USB ハードディスク ドライブ) にコピーできます。

HP Backup and Recovery Manager について詳しくは、HP Backup and Recovery Manager のデータシート (http://h20331.www2.hp.com/Hpsub/downloads/HP_Backup_and_recovery_Manager.pdf、英語版) を参照してください。

HP Backup and Recovery Manager のバージョン

HP Backup and Recovery Manager には 2 種類のバージョンがあります。

- Portables (ノートブック製品用)
- Desktops (デスクトップ製品用)



注記： Portables には、コンピュータの復元に使用できる Rescue CD が別途用意されています。Portables では、リカバリ CD を作成することもできます。Desktops には現在、Rescue CD が用意されていません。ユーザー自身でリカバリ CD を作成する必要があります。

注記： Portables の場合、バージョン 2.3G への更新が用意されており、Softpaq から入手する必要があります。この更新については <http://www.hp.com> で検索できます。

Portables (ノートブック製品用)

Portables で HP Backup and Recovery Manager を検索すると、HP Backup and Recovery Manager のファイルが格納された、C:\\$SWSETUP\SFT と C:\\$SWSETUP\SFT_REC という 2 つのフォルダが見つかります。SFT_REC バージョンの場合、SFT とほとんど同じ内容がハードディスク ドライブに展開され、デスクトップ上に HP Backup and Recovery Manager をインストールするためのリンクが追加されます。SFT バージョンには、追加のディレクトリとファイルがあり、これは工場出荷時のイメージでのみ使用されます。

HP Backup and Recovery Manager の Portables バージョンには、HP 3-in-1 NAS ドッキングステーションにバックアップするためのコンポーネントも用意されています。

Desktops（デスクトップ製品用）



リカバリメディアを作成するとき、HP Backup and Recovery ManagerでCDまたはDVDを直接作成するのではなく、ISOファイルを作成することもできます。バックドアからISOファイルを取得する場合、Backup and RecoveryパーティションのISOディレクトリ（D:\ISOSなど）に移動し、HP Backup and RecoveryのISOファイルを検索します。リカバリパーティションを参照するには、コマンドウィンドウで「regsvr32 shellvrtf.dll /u」と入力します。



注記： Portablesの場合、ISOファイルは事前に作成されていません。HP Backup and Recovery Managerを使用してISOファイルを作成する必要があります。

バックアップの種類

HP Backup and Recovery Managerには、代表的なバックアップソフトウェアよりも多くのオプションが用意されています。用意されているオプションは次のとおりです。

- リカバリポイント
- ドライブ全体のバックアップ
- ファイルとデータのバックアップ

Desktops および Portables では、以下の場所からバックアップできます。

- Desktops：推奨場所からバックアップできます。
- Portables：特定の場所から高度なバックアップを実行できます。

各種類のバックアップを実行する方法については、[21 ページの「イメージ全体または個別ファイルの復元」](#)を参照してください。

リカバリ ポイント

リカバリ ポイントとは、コンピュータを段階的にバックアップする任意の時点でのバックアップのことです。イニシャル リカバリ ポイントは、システム全体の大規模なバックアップで、復元イメージと呼ばれます。イニシャル リカバリ ポイントは自動的に作成されます。それ以降のリカバリ ポイントでは、前のリカバリ ポイントから新しく作成されたユーザ データだけを取り込みます。イニシャル リカバリ ポイントのバックアップは初期の基本イメージを含んでいるため、サイズが大きく実行に時間がかかります。ただし、後続のリカバリ ポイントの増分バックアップは、バックアップされるデータのサイズによって異なりますが、CD に収まる程度の小さいサイズにすることができます。

リカバリ ポイントを使用して、システムを空のハードディスク ドライブに復元できます。Portables の場合、Rescue CD、Recovery Media Creator セットの最初のディスク、またはリカバリ パーティションを使用して、リカバリ ポイントによるシステム イメージの復元が可能です。Desktops の場合、この手順にはリカバリ パーティションが必要です。Recovery Media Creator セットを使用してシステムを復元してから、リカバリ ポイントを復元できます。

リカバリと復元について詳しくは、[21 ページの「イメージ全体または個別ファイルの復元」](#)を参照してください。



注記： メディア作成プロセスの終了後に、HP Backup and Recovery Manager を使用してイニシャル リカバリ ポイントの追加コピーを作成することはできません。

ドライブ全体のバックアップ

ドライブ全体のバックアップによって、Windows パーティション データを含むシステム全体をバックアップできます。ドライブ全体のバックアップにリカバリ パーティションは含まれません。

ドライブ全体のバックアップでは Windows パーティションをバックアップするので、この種類のバックアップは、空き領域が問題とならない、管理が簡単なバックアップ（つまり、ネットワーク共有や外付けの USB ハードディスク ドライブへのバックアップ）といえます。ドライブ全体のバックアップは、Windows パーティションのサイズによって異なりますが、リカバリ ポイントよりも実行時間が長くなる可能性があります。



注記： 増分リカバリ ポイントまたはドライブ全体のバックアップを使用してシステムを復元する前に、イニシャル リカバリ ポイントを復元する必要はありません。

注記： リカバリ ポイントまたはドライブ全体のバックアップから個別のファイルまたはフォルダを復元することはできません。個別のファイルとフォルダを復元できるのは、個別のファイルとフォルダのバックアップ機能を使用してバックアップを実行した場合だけです。

ファイルとデータのバックアップ

個別のファイルとフォルダのバックアップを実行できます。ファイルバックアップによって、時間のかかるリカバリ ポイントまたはドライブ全体のバックアップを再度作成することなく、特定のファイルをバックアップできます。

バックアップするファイルの種類も指定できます。たとえば、すべての.doc ファイルをバックアップするように HP Backup and Recovery Manager を設定できます。

バックアップの種類別の注意事項

以前作成したリカバリ ポイントまたはドライブ全体のバックアップを使用して、システムを空のハードディスク ドライブに復元できます。ただし、Portables と Desktops では手順が異なります。Portables の場合、Rescue CD を使用してこの機能を実行できます。Desktop の場合、Recovery Media

Creator を使用してシステムを復元してから、リカバリ ポイントまたはドライブ全体のバックアップを復元する必要があります。

すべての種類のバックアップをメディア（CD、DVD）に作成できます。制限されるのはファイルサイズだけです。たとえば、ファイルサイズが CD の空き容量（通常、空の CD の場合 700 MB）より小さい限り、リカバリ ポイントを CD に保存できます。メディアの容量より大きいバックアップはネットワーク ドライブに保存できます。

「ファイルとフォルダのバックアップ」カテゴリから「リカバリ メディア」を作成することはできません。つまり、個別のファイルとフォルダは復元できますが、個別のファイルとフォルダのバックアップを使用して空のハードディスク ドライブにイメージを復元することはできません。

HP Backup and Recovery Manager では、**[個別のファイルおよびフォルダのバックアップを行う]**オプションを使用して保存された個別のバックアップ ファイルだけを参照できます。リカバリ ポイントまたはドライブ全体のバックアップから個別のファイルを復元することはできません。

HP Backup and Recovery Manager では、Windows PE（Windows Pre-Installation Environment）を利用してバックアップを復元します。

バージョン間の相違

次の表では、HP Backup and Recovery Manager のバージョン間の相違について説明します。

| ソフトウェア コンポーネント | Desktops | Portables |
|---|---|--|
| Rescue CD | 現在、Rescue CD は用意されていません。リカバリ CD を作成する必要があります。 | HP Backup and Recovery Manager のインストール中にリカバリ パーティションを削除する場合に使用する Rescue CD が用意されています。Rescue CD を使用して、ドライブ全体のバックアップ、リカバリ ポイント、またはファイルとフォルダのバックアップを復元できます。 機能なしモード（リカバリ パーティションなし）で HP Backup and Recovery Manager をインストールした場合、リカバリ ポイントを作成できません。 |
| SafeBoot のサポート SafeBoot 暗号化によって、コンピュータの使用中にハードディスク ドライブへの侵入を防止する暗号化を実現できます | なし。将来のリリリースで検討中です。 | あり |
| クラウド バイトのサポート（特定のアジア言語） | あり | なし |
| スケジュール | 高度なファイル バックアップがサポートされています。バックアップの種類、時間、保存場所を選択できます。 | 高度なファイル バックアップのスケジュールが可能ですが、推奨場所はありません。 |
| インストール | 自動インストールが可能です。 | エンド ユーザによるインストールの場合、リカバリ パーティションを作成するかどうかを選択してインストールできます。 リカバリ パーティションを作成する場合：完全な HP Backup and Recovery Manager がインストールされます。 リカバリ ポイントを作成しない場合：ファイルまたはフォルダのバックアップと復元、ドライブ全体のバックアップ、およびスケジュールのみがインストールされます。 |
| 暗号化 | ファイルはネイティブ MS 暗号化（EFS）を使用してバックアップされません。暗号化して、バックアップ アーカイブをパスワードで保護できます。同じ Windows インストール環境で同じ管理者の資格情報またはアカウントを使用した場合のみ、そのファイルの暗号化を解除できます。 | ファイルは「暗号化が解除された状態」でバックアップされます。ST 暗号化方法を使用してバックアップ アーカイブを保護するには、暗号化またはパスワード保護を選択する必要があります。このファイルは任意の Windows インストール環境で復元できます。 |
| フォルダ メニューでの HP 3-in-1 NAS ドッキングステーションのサポート | なし | あり |

インストール

HP Backup and Recovery Manager は、デスクトップ コンピュータおよびノートブック コンピュータの両方にプリインストールされています。さらに、ノートブック コンピュータには、エンドユーザーによるインストールバージョンが **C:\%SWSETUP%SFT_REC** フォルダに格納されています。



注記： HP Backup and Recovery Manager のファイルが格納された、**C:\%SWSETUP\SFT** と **C:\%SWSETUP\SFT_RET** という 2 つのフォルダがあります。SFT_REC バージョンの場合、SFT とほとんど同じ内容がハードディスク ドライブに展開され、デスクトップ上に HP Backup and Recovery Manager をインストールするためのリンクが追加されます。SFT バージョンには、追加のディレクトリとファイルがあり、これは工場出荷時のイメージでのみ使用されません。

注記： Desktops では、Windows XP 上で **SWSETUP** フォルダではなく、**COMPAQ** フォルダを使用します。

ソフトウェアのオプション

HP Backup and Recovery Manager は、次の 2 つの形式で提供されています。

- 出荷時にコンピュータにプリインストールされた状態。
- ワークステーションとデスクトップ コンピュータの追加 CD、およびノートブック コンピュータの **C:\%SWSETUP\SFT_REC** フォルダに格納された状態。**C:\%SWSETUP\SFT_REC** フォルダを CD に書き込んで、その CD から .exe を実行してインストールできます。

コンピュータにプリインストールされている場合、HP Backup and Recovery Manager は、自動的にリカバリパーティションおよびリカバリ ディスク セット（作成した場合）に追加されます。このアプリケーションはコンピュータにすでに存在するので、システムを復元するとまた自動的に配置されます。HP ハードウェアの購入時に HP Backup and Recovery Manager が添付されている場合、CD から setup.exe アプリケーションを実行すると、簡単にインストールできます。

Portables 用の Web サイトで、HP Backup and Recovery Manager ソフトウェアのアップグレードバージョンを提供しています。このアップグレードは、ドライバなどの付属ソフトウェアの更新と同じ場所からダウンロードできます。

Portables の場合、ソフトウェアはプリインストールされています。**C:\%SWSETUP\SFT_REC** フォルダから setup.exe ファイルを実行します。

イメージ用のソフトウェアの取得

カスタム イメージを使用する場合、**C:\%SWSETUP** フォルダから目的のソフトウェアを選択します。

または、Desktops の場合、リカバリパーティションで使用できる ISO イメージをメディアに書き込み、クリーンオペレーティングシステムをロードし、インストールするソフトウェアを選択できます。



注記： HP Backup and Recovery Manager は、プリインストールされているシステムでのみ使用できます。HP Backup and Recovery Manager がプリインストールされていないシステムには、このソフトウェアを使用するためのライセンスがありません。

企業環境での導入

次のオプションを使用して、企業環境に HP Backup and Recovery Manager を導入できます。

- Desktops : コマンド SETUP.EXE -S -Q を使用して、自動的に HP Backup and Recovery Manager をインストールし、バックアップを作成できます。
- Portables : 自動インストールはサポートされていません。このため、HP Backup and Recovery Manager をプリロードし、その後システムごとに対話形式でインストールを実行する必要があります。

モデルの異なるシステムへの単一バージョンのソフトウェアの導入

HP Backup and Recovery Manager の単一バージョンは、複数の異なるモデルまたはシステムをサポートします。したがって、任意のサポートされているシステムに単一バージョンをインストールできます。

複数のパーティションでのインストール

パーティションが複数あるドライブへの HP Backup and Recovery Manager のインストールは、Desktops ではサポートされていますが、Portables ではサポートされていません。ただし、HP Backup and Recovery Manager のインストール後にパーティションを追加できます。

次の回避策を実行することによって、アプリケーションのインストールが可能になる場合があります。75 GB のディスクを使用した場合を例として説明します。

1. 75 GB のディスクをフォーマットしなおします。
2. RDEPLOY を使用して、50 GB の C パーティションを作成し、v2.3i を格納しているまだ展開されていない出荷用のイメージを配置します。
3. WinPE で DISKPART を使用して 20 GB の D パーティションを作成します。
4. 工場出荷時のイメージを展開することにより、HP Backup and Recovery Manager および関連するすべてのソフトウェアを完全にインストールします。

ハードディスク ドライブのイメージの再作成

HP Backup and Recovery Manager は、Desktops で複数のパーティションへのインストールをサポートします。Portables での複数のパーティションへのインストールはサポートしません。インストール後にパーティションとディスクを追加できます。

HP Backup and Recovery Manager を使用して、以前イメージを作成したシステムにイメージを配置した後で、WinPE から DISKPART を実行すると、ハードディスク ドライブの「ロック解除」または「クリーンアップ」が実行されず、イメージを再作成できないことがあります。

この場合、HP Backup and Recovery パーティションの WINBOM.INI が原因で、WinPE によってハードディスク ドライブ上に PAGEFILE.SYS が作成されます。WinPE が C パーティションにアクセスしているときは DISKPART ではそのパーティションを変更することができません。

この場合、ハードディスク ドライブのイメージを再作成するには、以下のどちらかの操作を行います。

- WinPE ビルドを編集して、HP Backup and Recovery パーティションで WINBOM.INI を使用しないようにします。

または

- HP Backup and Recovery パーティションから WINBOM.INI を削除します。
1. レジストリが既知の適切な WINBOM.INI を示すように WinPE CD イメージを再構築します。レジストリ キーによって指定されるパスとファイル名は、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Factory¥Winbom です。



注記： WinPE は、システムの他の場所から他の WINBOM.INI ファイルを取得する可能性があります。正しい WINBOM.INI ファイルを使用していることを確認するには、レジストリ設定を使用します。

2. HP Backup and Recovery パーティションで WINBOM.INI の名前を変更するか削除し、WinPE を再起動します。

イメージを再作成する場合、WINBOM.INI ファイルの削除は選択肢の 1 つです。ただし、イメージを再作成しない場合に削除すると、削除後に HP Backup and Recovery が機能しなくなります。

回避策では、以下に示すように、FACTORY.EXE を実行する前にすべての WINBOM.INI ファイル (WinPE は X:¥から起動するので、X:¥ドライブを除く) の名前を変更し、FACTORY.EXE の終了後にその他の WINBOM.INI ファイルの名前を変更する必要があります。WINBOM.INI ファイルを元の名前に変更する前に問題が発生した場合、HP Backup and Recovery Manager などの他のユーティリティが機能しなくなります。

```
for %%a in (a,b,c,d,e,f,g,h,i,j,k,l,m,n,o,p,q,r,s,t,u,v,w,y,z) DO if exist %%a:¥winbom.ini ren %%a:¥winbom.ini winbom.tmp
```

```
factory -winpe
```

```
for %%a in (a,b,c,d,e,f,g,h,i,j,k,l,m,n,o,p,q,r,s,t,u,v,w,y,z) DO if exist %%a:¥winbom.ini ren %%a:¥winbom.tmp winbom.ini
```

パフォーマンス上の理由から、HP Backup and Recovery Manager の WINBOM.INI には、C:に PAGEFILE.SYS を作成する PageFileSize=64 行があります。



注記： コンピュータのイメージの再作成後に、HP Backup and Recovery Manager をインストールしようとする、コンピュータが正常に起動せず、画面左上に点滅するカーソルが表示されることがあります。これが発生する場合、オペレーティング システムのイメージを配置するときに必ず MBR をリセットしてください。

HP Backup and Recovery Manager の管理

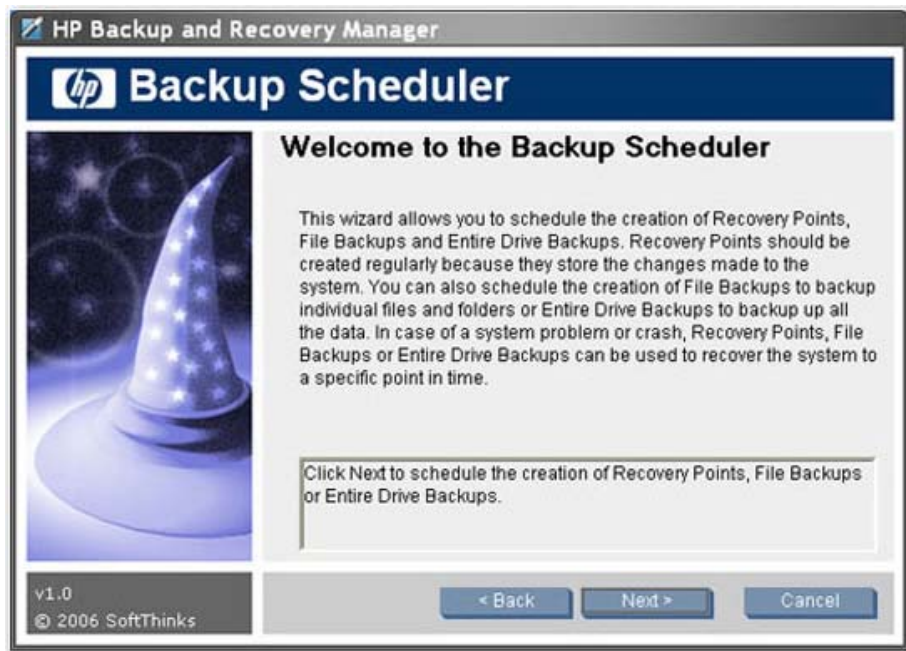
ここでは、HP Backup and Recovery Manager の管理について説明します。



注記： Microsoft Windows Management Instrumentation (WMI) を使用して HP Backup and Recovery Manager を管理することはできません。

ポリシーまたはスケジュールの実施

HP Backup and Recovery Manager には、設定後ユーザによる操作を必要としないスケジュールユーティリティが用意されています。バックアップスケジュールをすぐに作成して、継続的にシステムおよびデータのセキュリティを確保することをおすすめします。



次の種類のバックアップの場合、Desktops と Portables でのスケジュール設定方法は同じです。

- ドライブ全体のバックアップ
- リカバリ ポイント マネージャ
- ファイルとフォルダのバックアップ



注記： 外付けドライブ、ネットワーク、または HP 3-in-1 NAS (Portables のみ) へのスケジュールを設定できます。

注記： Recovery Media Creator の操作は一度限りであるため、スケジュール設定することはできません。無視する、ユーザに後で通知する、または今後通知しない、のどれかを選択できる週単位の通知があります。4 回目の通知が表示された後、それ以降は自動的に表示されなくなります。

注記： スケジュールを設定できるのは、ローカル システムに対してだけです。

注記： 現在、管理者がユーザにバックアップの実行を強制できる機能はありません。

パスワード

HP Backup and Recovery Manager には、パスワード保護が用意されています。パスワードによって、ドライブ全体のバックアップおよび個別ファイルのバックアップが保護されます。パスワードは、ユーザおよびシステムに依存しません。



注記： リカバリ ポイントにはパスワード保護が用意されていません。

最初のドライブ全体のバックアップをパスワードで保護できます。ただし、イニシャル リカバリ ポイントにはユーザ データがほとんどなく、またパスワードは機密データを保護するためのものですので、イニシャル リカバリ ポイントおよび増分リカバリ ポイントはどちらもパスワードで保護されません。

圧縮

HP Backup and Recovery Manager では圧縮を使用します。圧縮比率は、ディスク上のデータによって異なりますが、30 ~ 70%の範囲です。

暗号化

「個別のファイルとフォルダ」バックアップを暗号化できます。バックアップの種類をパスワードで保護できます。暗号化アルゴリズムは、論理 XOR とビット回転に基づいた単純なエンコードです。HP Backup and Recovery Manager だけがその暗号化を読み取ることができます。



注記： バックアップにはパスワードやキーが使用されていないため、バックアップ自体が「保護されている」と考えることはできません。

EFS ファイル システムで暗号化されたファイルをバックアップすると、バックアップされたファイルは暗号化された状態のままです。

HP Backup and Recovery Manager では、ProtectTools で暗号化されたファイルを復元します。暗号化されたファイルを復元できるのは、そのファイルが作成されたシステムだけです。ただし、ファイルを復元する別のシステムに Embedded Security 資格情報データが移行されている場合を除きます。Embedded Security 資格情報データの移行について詳しくは、ProtectTools のヘルプ ファイルを参照してください。

内蔵 F11 ホットキーのサポート

HP Backup and Recovery Manager は、HP 起動リカバリ パーティションに対して内蔵 F11 ホットキーをサポートします。F11 キーで起動した HP Backup and Recovery Manager の機能は、BIOS の影響を受けません。

F11 BIOS がセットアップによって有効に設定されている場合、リカバリ パーティションを示すボリューム ラベルのエントリが存在するかどうかを BIOS でチェックされます。

機能の有効化と無効化

現在、HP Backup and Recovery Manager をカスタマイズすることはできません。機能を有効または無効に設定できるユーザ操作はありません。HP の開発部門でのみ、機能を削除または無効に設定できます。

カスタム オペレーティング システムの再ロード後のマスタ ブート レコード (MBR) のリセット

HP Backup and Recovery Manager がインストールされているコンピュータでハードディスクをフォーマットし、その後新しいオペレーティング システムをインストールしてマスタ ブート レコード (MBR) をリセットしていない場合、コンピュータを起動するたびに以下のメッセージが表示されます。**Warning: Your system recovery partition was removed. Press F10 to start the system recovery anyway or another key to delete the recovery partition.** (警告: システムのリカバリ パーティションが移動されました。F10 キーを押すとシステムのリカバリが開始されます。別のキーを押すとリカバリ パーティションが削除されます。)

HP Backup and Recovery Manager は初期設定の MBR を変更するため、**Press F11 to restore your system**（システムを復元するには F11 キーを押してください。）というメッセージも表示されます。リカバリ パーティションが削除された場合、コンピュータを起動するたびに、MBR によってリカバリ パーティションのエラー メッセージが出力され、どれかのキーを押して起動プロセスを続行することが要求されます。このメッセージが表示されないようにするには、MBR を初期値にリセットします。

MBR をリセットする方法は次のとおりです。

- DOS から起動して以下を入力します。
 - FDISK /MBRまたは
 - GDISK /MBR (ghost から利用可能なユーティリティ)
 - WinPE 2.0 から起動して以下を入力します。Bootsect -nt52 c: /force
- WinPE 2.0 および bootsect.exe は、Microsoft からダウンロードできる WAIK に収録されています。

この手順によってディスク上の他のデータは変更されません。

diskpart で使用できる CLEAN コマンドを使用して、WinPE 環境でディスクを消去することもできます。

通知

ここでは、リカバリ メディアを作成することをユーザに通知するために表示されるポップアップ ウィンドウについて説明します。

通知の基本機能

HP Backup and Recovery Manager のインストール中、すぐにリカバリ ディスク セットを作成して、メインハードディスク ドライブ以外の場所にバックアップを確実に配置することを促すメッセージが表示されます。この通知は、一度に 1 週間ずつ延期できます。4 回目の表示では、この通知を永久に無効にするための追加のオプションが表示されます。

通知メッセージの無効化

リカバリ メディアの作成を促すポップアップ通知を制御できます。



通知の延期期間が経過した場合、初期設定の状態では、ユーザがログインすると HP Backup and Recovery によってポップアップウィンドウが表示されます。一部のエンドユーザによるリカバリメディアの作成を許可しない場合は、サポート窓口に連絡して通知ポップアップウィンドウを無効にするためのツールを取得してください。また、以下のレジストリキーを変更して、通知プログラムの実行を中止できます。[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Run] "Reminder"=-



注記： リカバリ ディスク セットをすぐに作成することを強くおすすめします。

バックアップ

ここでは、バックアップの使用について説明します。

オフラインバックアップ

オフラインバックアップおよび復元は必要ありません。

ほとんどのバックアップは、Windows で作成され、WinPE 環境でオフラインで復元されます。例外は「個別のファイルとフォルダ」バックアップで、これは Windows または WinPE で作成でき、Windows で復元できます（ただし、WinPE では復元できません）。

セクタ単位またはファイル単位のバックアップ

バックアップは、次のようにセクタ単位またはファイル単位で実行されます。

- ドライブ全体のバックアップおよびイニシャル リカバリ ポイントは、セクタ単位のバックアップです。
- 後続のリカバリ ポイントおよび個別のファイルとフォルダのバックアップは、ファイル単位のバックアップです。

整合性の検証

バックアップの整合性を検証するために、HP Backup and Recovery Manager では、日付、タイムスタンプ、ファイル サイズ、および属性のチェックを使用します。

バックアップと RAID のサポート

HP Backup and Recovery Manager は、ハードウェア RAID（ワークステーションで使用可能）およびセミハードウェア RAID（一部の 2006 デスクトップモデルで使用可能）をサポートします。Microsoft Windows XP でダイナミックディスクやダイナミックボリュームを作成する機能など、ソフトウェア RAID はサポートしません。

バックアップの保存場所

バックアップの場所については、以下を参照してください。

- エンドユーザによるインストールの場合、イニシャルリカバリポイントは、必ずリカバリパーティションに作成されます。
- ドライブ全体のバックアップは、ローカルのユーザパーティションまたはネットワークや他のドライブなどの外部の場所に作成できます。
- リカバリポイントは、ユーザパーティション、セカンダリハードディスクドライブ、ネットワーク、またはオプティカルメディアに作成できます。
- 個別のファイルとフォルダのバックアップは、ローカル、またはネットワーク、他のドライブ、オプティカルメディアなどの外部に作成できます。
- 工場出荷時のインストールの場合、バックアップイメージは、最初に Windows パーティションに保存され、ユーザの操作に応じて（Recovery Media Creator の起動、ドライブ全体のバックアップの実行、リカバリポイントの作成など）、後からリカバリパーティションに移動します。

帯域幅の制限

ネットワークにバックアップするときに帯域幅を制限することはできません。

バックアップのフェールオーバー

バックアップが存在する場合、2 番目のローカルディスクに自動フェールオーバーを実行することはできません。

ローカルドライブでのドライブ全体のバックアップ

ドライブ全体のバックアップが保存されている **C:\System Recovery** には、ロックダウンされたフォルダがあり、必要に応じて Windows で HP Backup and Recovery Manager を使用してそのバックアップを削除することはできません。このため、ローカルドライブに誤ってドライブ全体のバックアップを作成し、別のドライブ全体のバックアップを追加で作成しようとした場合、パーティションに十分な空き領域がない場合はドライブ全体のバックアップのプロセスが中止されます。古いドライブ全体のバックアップは C:\ ドライブから削除できません。

スケジュール設定されたバックアップ

HP Backup and Recovery Manager には、便利なスケジュールユーティリティがあります。設定後は、スケジュール設定されたバックアップに対してユーザによる操作は必要ありません。バックアップ

スケジュールをすぐに作成して、継続的にシステムおよびデータのセキュリティを確保することをおすすめします。

スケジューラを選択するには、[スタート]→[すべてのプログラム]→[HP Backup & Recovery]→[HP バックアップ スケジューラ]の順に選択します。



注記： スケジュールを作成するときにパスワードを使用した場合、スケジュール設定されたバックアップにユーザによる操作が必要なことがあります。

次のような手動で作成できるバックアップであればどれでもスケジュール設定できます。

- リカバリ ポイント
- ドライブ全体のバックアップ
- ファイルバックアップ

手動バックアップ

HP Backup and Recovery Manager では、手動または自動で個別のファイルのバックアップ、ドライブ全体のバックアップ、またはリカバリ ポイントを作成できます。手動バックアップ オプションは、ネットワーク、ハードディスク ドライブ、または CD と DVD にバックアップできる単一のアーカイブを作成するときに便利です。

手動バックアップを実行するには、以下の手順で操作します。

1. [スタート]→[すべてのプログラム]→[HP Backup & Recovery]→[HP Backup and Recovery Manager]の順に選択します。
2. [次へ]をクリックします。
3. [システム設定情報と重要ファイルを保護するためにバックアップする]を選択します。
4. 実行するバックアップの種類を選択し、ウィザードの説明に沿って操作します。

リカバリ ポイント

HP Backup and Recovery Manager では、ハードディスク ドライブに作成したリカバリ ポイントを削除するか、CD または DVD に移動して、ハードディスク ドライブの空き領域を確保できます。

リカバリ ポイントは増分のため、1つのリカバリ ポイントを削除するとそれ以降のすべてのリカバリ ポイントも削除されます。ただし、リカバリ ポイントの場所はその他の場所に依存しません。たとえば、ネットワーク上に作成されたリカバリ ポイントはそれぞれ増分ですが、外付けのハードディスク ドライブに保存されたリカバリ ポイントには依存しません。ネットワーク上からリカバリ ポイントを削除した場合、影響を受けるのはその場所にあるリカバリ ポイントだけです。

コンポーネントの保存

以下に、各種コンポーネントを保存できる場所の一覧を示します。

| | ネットワーク ドライブ | CD/DVD* | セカンダリ ハードディスク ドライブ |
|-------------|-------------|---------|-----------------------|
| ファイルバックアップ | ○ | ○ | ○ |
| リカバリ ポイント** | ○ | ○ | ○ |

*Recovery Media Creator によって作成されたリカバリ ディスク セットと共にこのディスクを使用して、最後のアーカイブが作成された時点までシステムを完全に復元できます。

**リカバリ ポイントの作成中、リカバリ ポイントをネットワーク上に保存できます。ただし、CD または DVD のアーカイブは、そのプロセスとは別に作成されます。

リカバリ

HP Backup and Recovery Manager では、HP Backup and Recovery Manager がシステムにプリインストールされている場合はコンピュータのハードディスク ドライブを再セットアップできます。

HP Backup and Recovery Manager には、基本的な 2 つのリカバリ方法があります。1 つは、Windows 上のファイルやフォルダのリカバリです。もう 1 つは、コンピュータのリカバリです。これには、リカバリ パーティションまたはリカバリ ディスク セットからの再起動が必要です。



注記： システム全体を復元しないでファイルを表示して抽出する場合、**[個別のファイルおよびフォルダのバックアップを行う]**オプションを使用してファイルとフォルダを保存する必要があります。

以下の一覧にリカバリに関する情報を記載します。

- 工場出荷時にインストールされるリカバリ パーティションは、出荷されるイメージによって異なります。一般的なパーティション サイズは 8 GB です。
- イニシャル リカバリ ポイントの作成場所を制御することはできません。

リカバリ パーティション

リカバリ パーティションには、モデルに応じて、Microsoft オペレーティング システム、HP Restore Plus!、その他の補助製品とリカバリ製品の ISO イメージを含む、工場出荷時にインストールされたすべてのソフトウェアおよびこのシステムに同梱されたすべてのソフトウェアのレコードが格納されます。HP Backup and Recovery Manager では、このレコードを使用してシステムのハードディスク ドライブを復元します。リカバリ パーティションを削除するとこのレコードは破棄されます。

必要に応じて、リカバリ パーティションを削除できます。ただし、削除する前に Recovery Media Creator を実行して、すべての ISO イメージを含む、リカバリ パーティション上のソフトウェアのディスク バックアップを作成してください。

リカバリ パーティションは、NTFS プライマリ パーティションで、ユーザと管理者に対して完全に非表示ではありません。ただし、このパーティションは保護されていて、ユーザが、Windows エクスプローラで内容を表示してファイルに簡単にアクセスできないようにされています。パーティションのどのセクタも不良にマークされません。

Recovery Media Creator

リカバリ ディスク セットの作成は、コンピュータのハードディスク ドライブのセキュリティを確保するために実行できる最も重要な操作の1つです。

1. HP Backup and Recovery Manager を起動します。
2. [よろこ]画面が表示された後、[ファクトリーソフトウェアのリカバリ CD または DVD を作成して、システムを回復します (強く推奨)。]を選択します。
3. ウィザードの説明に沿って操作します。

このウィザードでは、リカバリ ディスクを直接作成するか、そのディスクを ISO イメージとしてハードディスク ドライブに保存できます。この ISO イメージは後で他のアプリケーションを使用してディスクに保存できます。

オペレーティング システム

WinPE は、完全なコンピュータのリカバリ (F11 キー復元) に使用するメディア オペレーティング システムです。HP では、diskpart、format などのツールをコマンド ライン プロンプトで使用して、基礎となるオペレーティング システムにアクセスすることはサポートしていません。

リカバリ パーティションには、WinPE オペレーティング システム、パーティションへの起動に必要な HP Backup and Recovery ファイル、およびイニシャル リカバリ ポイントが格納されます。工場出荷時にブリーインストールされていた場合、そのパーティションには Microsoft オペレーティング システムおよび Restore Plus! も格納されます。また、デスクトップおよびワークステーションのシステムには追加の ISO があります。

リカバリ メディア

一度リカバリ メディア セットを作成した後で、別のセットを作成することはできません。また、リカバリ パーティションを削除した場合、リカバリ ポイントを作成できません。リカバリ パーティションの削除はデスクトップ システムに重大な影響を与えることに注意してください。Portables には、以前作成したドライブ全体のバックアップまたはリカバリ ポイントの復元に使用できる Rescue CD があります。ただし、Desktops にはこのような機能がありません。このため、リカバリ パーティションを削除すると、ほとんどの機能が失われます。

リカバリ メディアから起動するとき、WinPE がサポートしているネットワーク ドライバを使用してネットワークへの接続が可能です。ネットワークは、リカバリ パーティションから起動するときには使用できませんが、オプティカル ディスクに書き込まれたリカバリ メディアから起動するときには使用できません。



注記： リカバリ ディスク セットの最初のディスクを起動して、ネットワークを参照して以前作成したバックアップを検索できます。

リカバリ ディスク セットの作成は、ハードディスク ドライブのセキュリティを確保するために実行できる最も重要な操作の1つです。リカバリ ディスク セットを作成するには Recovery Media Creator を使用します。

Recovery Media Creator にアクセスするには、以下の手順で操作します。

1. **[スタート]→[すべてのプログラム]→[HP Backup & Recovery]→[HP Backup and Recovery Manager]**の順に選択します。
2. **[ようこそ]**画面が表示された後、**[Create recovery CDs or DVDs to recover the system]**（システムの復元用にリカバリ CD または DVD を作成する）を選択します。
3. ウィザードの説明に沿って操作します。

このウィザードでは、リカバリ ディスクを直接作成するか、そのディスクを ISO イメージとしてハードディスク ドライブに保存できます。この ISO イメージは後で他のアプリケーションを使用してディスクに保存できます。



注記： このアプリケーションでは、ISO イメージをハードディスク ドライブに保存した後でその ISO イメージをディスクに書き込むことができません。ただし、このアプリケーションでは、リカバリ ディスク セットおよびその他のバックアップまたはリカバリ ポイントのディスクを作成できます。

イニシャル リカバリ ポイントは、リカバリ ディスク セットによってディスクに保存されます。イニシャル リカバリ ポイントを複数回ディスクに保存することはできません。

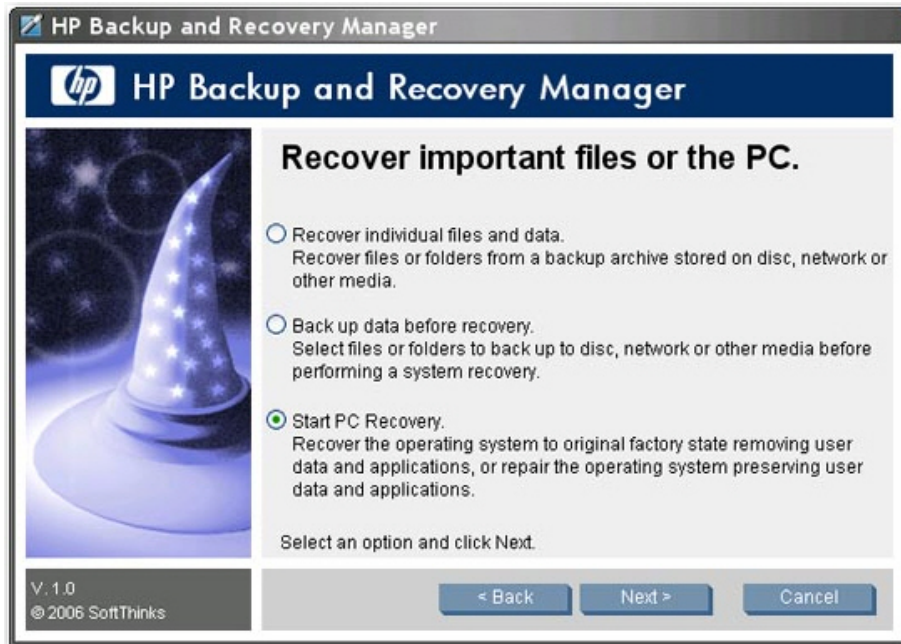
復元方法

HP Backup and Recovery Manager には、基本的な 2 つのリカバリ方法があります。1 つは、Windows 上のファイルやフォルダのリカバリです。もう 1 つは、コンピュータのリカバリです。これには、リカバリ パーティションまたはリカバリ ディスク セットからの再起動が必要です。

リカバリ ウィザードにアクセスするには、以下の手順で操作します。

1. **[スタート]→[すべてのプログラム]→[HP Backup & Recovery]→[HP Backup and Recovery Manager]**の順に選択します。
2. **[ようこそ]**画面で**[次へ]**をクリックします。

3. [重要なファイルまたはシステム全体を復元する]を選択します。



4. 実行するリカバリの種類を選択します。

リカバリ メディアの作成

ISO 作成プロセスまたはメディア作成プロセスを開始した場合、HP Backup and Recovery は以下の場合でもプロセスを中止した場所を記憶します。

- ISO ファイルの作成とメディアの作成との間で切り替えを行おうとした場合。
- ISO 作成プロセスを完了して、そのプロセスを再度開始した場合。以下のメッセージが表示されます。



リカバリ メディア作成プロセスを再度開始するために HP Backup and Recovery Manager をリセットすることはできません。

リカバリ パーティションの削除

リカバリ パーティションには、オペレーティング システム、HP Restore Plus!、その他の補助製品とリカバリ製品の ISO イメージを含む、工場出荷時にインストールされたすべてのソフトウェアおよびシステムに同梱されたすべてのソフトウェアの記録が格納されます。HP Backup and Recovery Manager では、この記録を使用してシステムのハードディスク ドライブを復元します。リカバリ パーティションを削除するとこの記録は破棄されます。

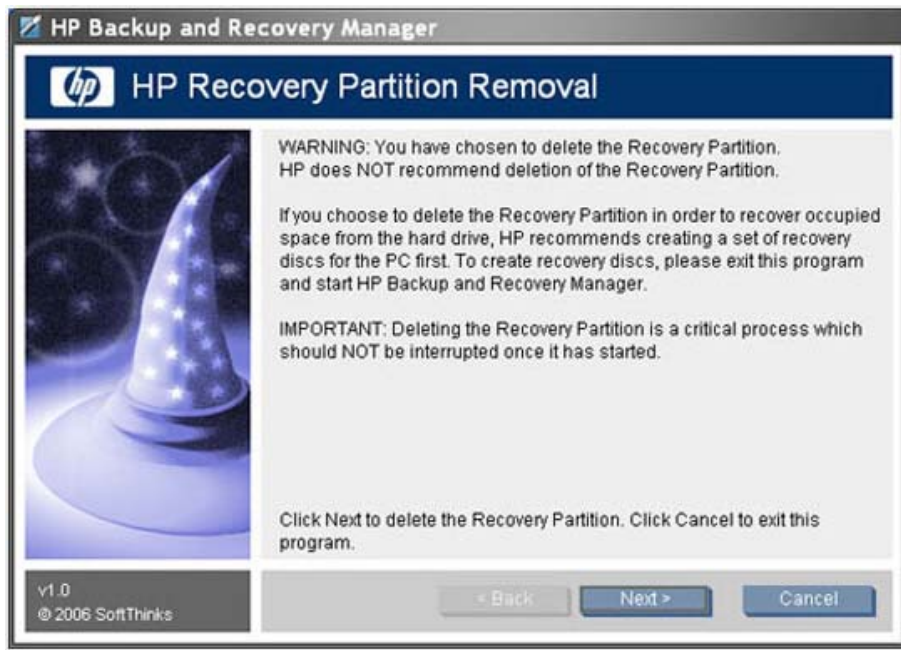


注記： ISO イメージを Portables で使用するには、ISO イメージを事前に作成しておく必要があります。

ハードディスク ドライブの容量が小さい一部のコンピュータでは、リカバリ パーティションによって大量の必要なハードディスク ドライブの領域が使用される可能性があります。このため、リカバリ パーティションを削除できます。ただし、削除する前に Recovery Media Creator を実行して、すべての ISO イメージを含む、リカバリ パーティション上のソフトウェアのディスク バックアップを作成してください。

リカバリ パーティションを削除するには、以下の手順で操作します。

1. [スタート]→[すべてのプログラム]→[HP Backup & Recovery]→[Remove HP Recovery Partition] (HP リカバリ パーティションの削除) の順に選択します。



2. ウィザードの説明に沿って操作します。

Portables では、リカバリ パーティションを削除するか、HP Backup and Recovery Manager のインストール時にリカバリ パーティションを追加しなかった場合 (リカバリ ポイントのインストールなし)、最初のリカバリ CD、システム リカバリ セットの最初のディスク、または Rescue CD を使用して孤立したドライブ全体のバックアップまたはリカバリ ポイントを復元できます。Desktops にこの機能はありません。

コンピュータのリカバリ

コンピュータのリカバリでは、システム エラーから回復したり、コンピュータのハードディスク ドライブを以前の状態に戻したりできます。HP Backup and Recovery Manager ではリカバリ パーティションからコンピュータのリカバリを実行する必要があります。コンピュータのリカバリを実行するには 2 つの方法があります。

Windows からコンピュータのリカバリを実行するには、以下の手順で操作します。

1. [スタート]→[すべてのプログラム]→[HP Backup & Recovery]→[HP Backup and Recovery Manager]の順に選択します。
2. [ようこそ]画面が表示された後、[重要なファイルまたはシステム全体を復元する]を選択し、[次へ]をクリックします。
3. [PC Recovery]（コンピュータのリカバリ）を選択し、[次へ]をクリックします。

システムを再起動してからコンピュータのリカバリを続行します。

Windows が使用できないときにコンピュータのリカバリを実行するには、以下の手順で操作します。

コンピュータの電源を入れます。

[Press F11 for Emergency Recovery]（緊急リカバリには F11 キーを押してください）が表示されたらすぐにキーボードの **F11** キーを押します。

HP Backup and Recovery Manager では、コンピュータのリカバリを実行する前に重要なファイルをバックアップできます。



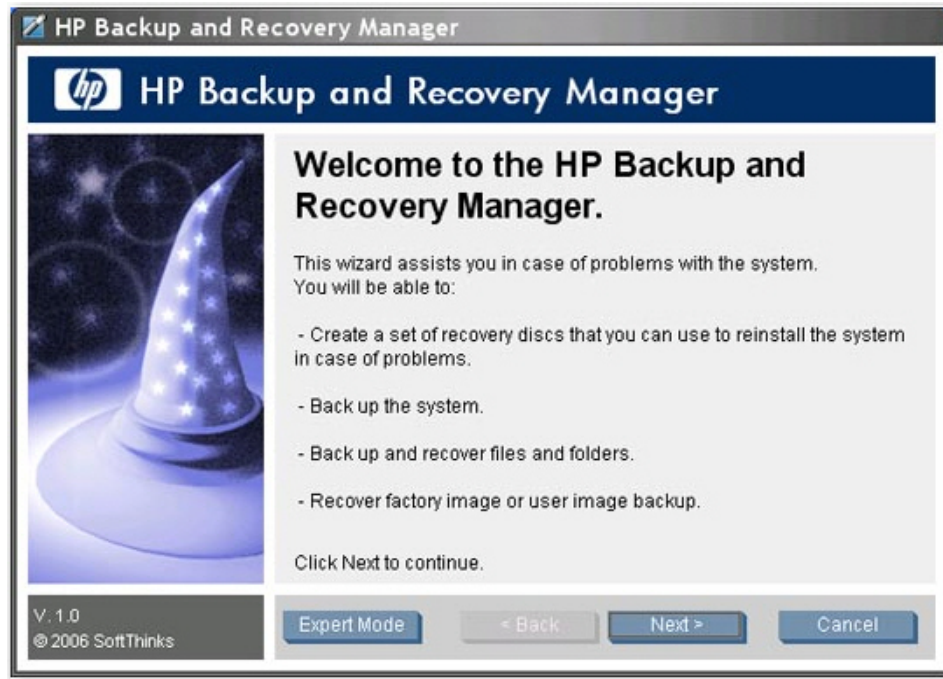
注記： ハードディスク ドライブを交換した場合、以前作成したリカバリ メディアを使用して復元できます。

イメージ全体または個別ファイルの復元

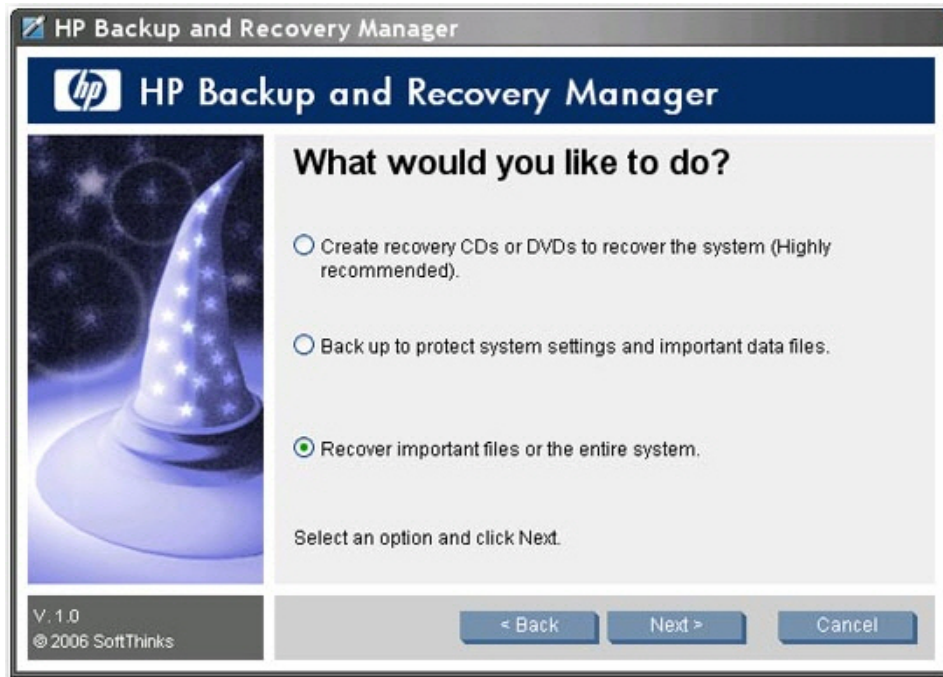
HP Backup and Recovery Manager を使用して、特定のファイルまたはシステム全体を復元できます。

ファイルまたはシステム イメージ全体を復元するには、以下の手順で操作します。

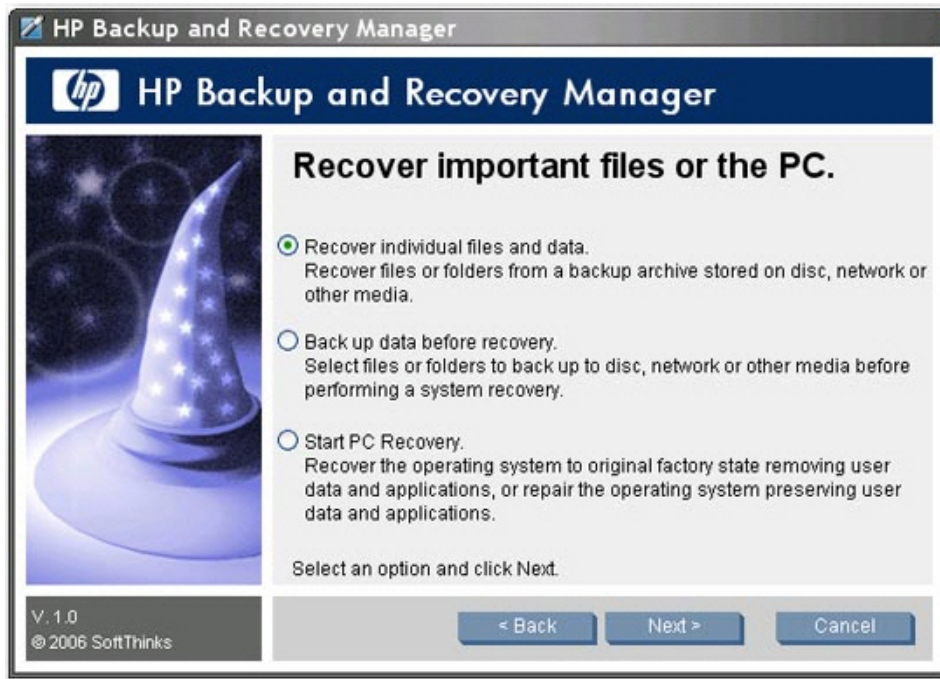
1. [スタート]→[すべてのプログラム]→[HP Backup and Recovery]→[HP Backup and Recovery Manager]の順に選択して、ソフトウェアを起動します。



2. [ようこそ]画面で[次へ]をクリックします。[What would you like to do?] (操作の選択) ウィンドウが表示されます。



3. [重要なファイルまたはシステム全体を復元する]を選択し、[次へ]をクリックします。
4. 個別のファイルを復元するのか、ファイルを復元する前にバックアップを実行するのか、または完全なコンピュータのリカバリを実行するのかを選択します。



- a. **[Recover individual files and data]** (個別のファイルとデータを復元する) : 個別のファイルを復元する場合に選択します。このオプションを選択する場合、[23 ページの「個別ファイルの復元」](#)を参照してください。
- b. **[Back up data before recovery]** (リカバリ前にデータをバックアップする) : リカバリを実行する前に特定のファイルをバックアップする場合に選択します。
- c. **[Start PC recovery]** (コンピュータの復元を開始する) : コンピュータを再セットアップする場合、またはユーザ データやアプリケーションを削除しないでオペレーティング システムを修復する場合に選択します。このオプションを選択する場合、[27 ページの「コンピュータのリカバリ」](#)を参照してください。

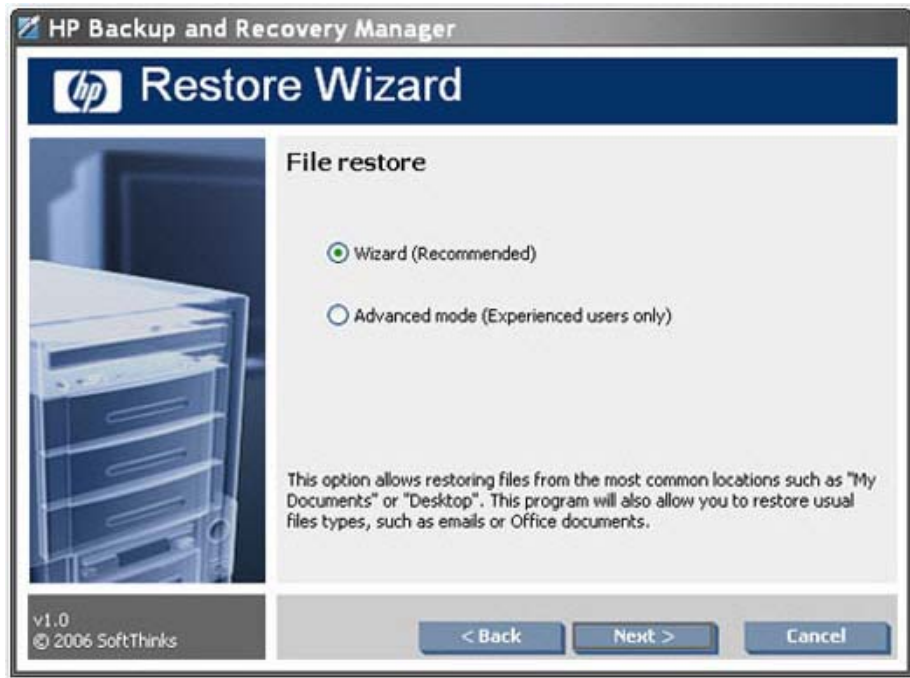
個別ファイルの復元

ファイル リカバリ ウィザードまたは詳細モードを使用して、復元するファイルを指定できます。

- ファイル リカバリ ウィザードでは、マイ ドキュメントやデスクトップなどの一般的な場所と種類を使用して、以前バックアップしたファイルを復元できます。このウィザードでは、電子メールや Microsoft Office のドキュメントなどの一般的なファイルの種類を復元できます。
- 詳細モードでは、以前バックアップしたファイルを参照して復元するファイルを選択できます。このオプションは上級ユーザ向けです。

[Recover Important Files or the PC]（重要なファイルまたはコンピュータの復元）ウィンドウで**[Recover individual files and data]**（個別のファイルとデータを復元する）を選択した場合、以下の手順で操作します。

1. **[Welcome to the File Recovery Wizard]**（ファイル リカバリ ウィザードへようこそ）ウィンドウで**[次へ]**をクリックします。**[File restore]**（ファイルの復元）ウィンドウが開きます。



2. ファイル リカバリ ウィザードを使用するのか、詳細リカバリを実行するのかを選択します。
3. **[Wizard]**（ウィザード）を選択した場合、**[次へ]**をクリックすると**[Select the backup to restore]**（復元するバックアップの選択）ウィンドウが表示されます。
4. **[Advanced mode]**（詳細モード）を選択した場合、手順 10 に進みます。

5. **[Select the backup to restore]** (復元するバックアップの選択) 画面で、復元するバックアップファイルを選択し、**[Add]** (追加) をクリックします。**[次へ]**をクリックします。



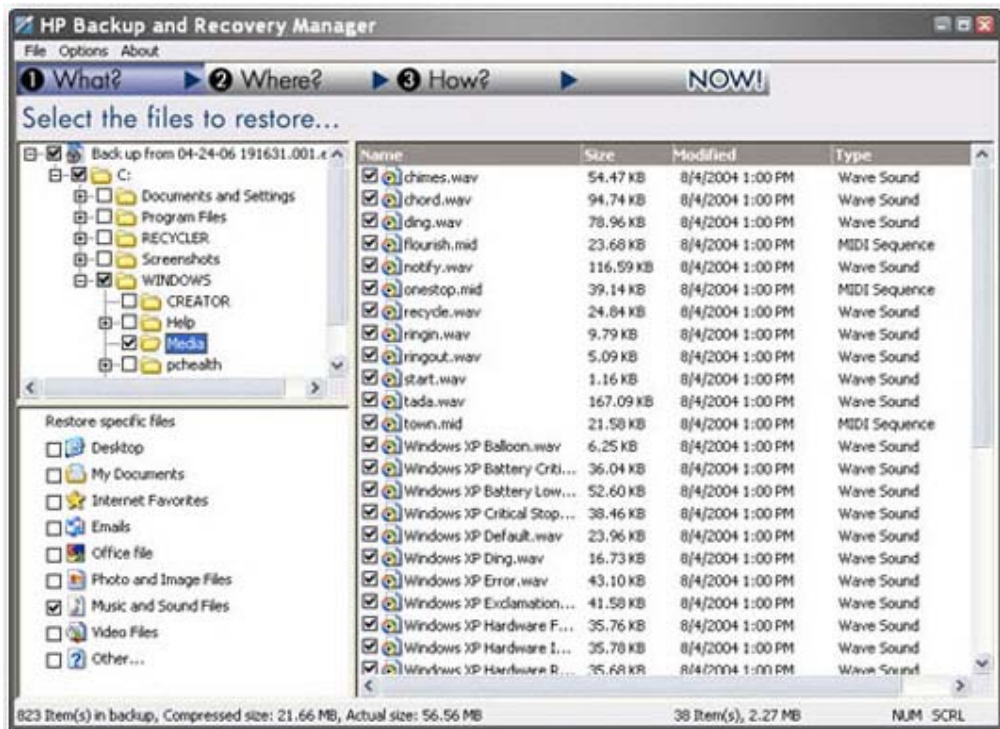
6. **[File restore]** (ファイルの復元) 画面で、選択したバックアップからすべてのファイルを復元するのか、特定のファイルだけを復元するのかが選択し、**[次へ]**をクリックします。
7. 特定のファイルの復元を選択した場合、復元するファイルの種類を選択し、**[次へ]**をクリックします。
8. 重複するファイルが見つかったときの処理方法を選択し、**[次へ]**をクリックします。



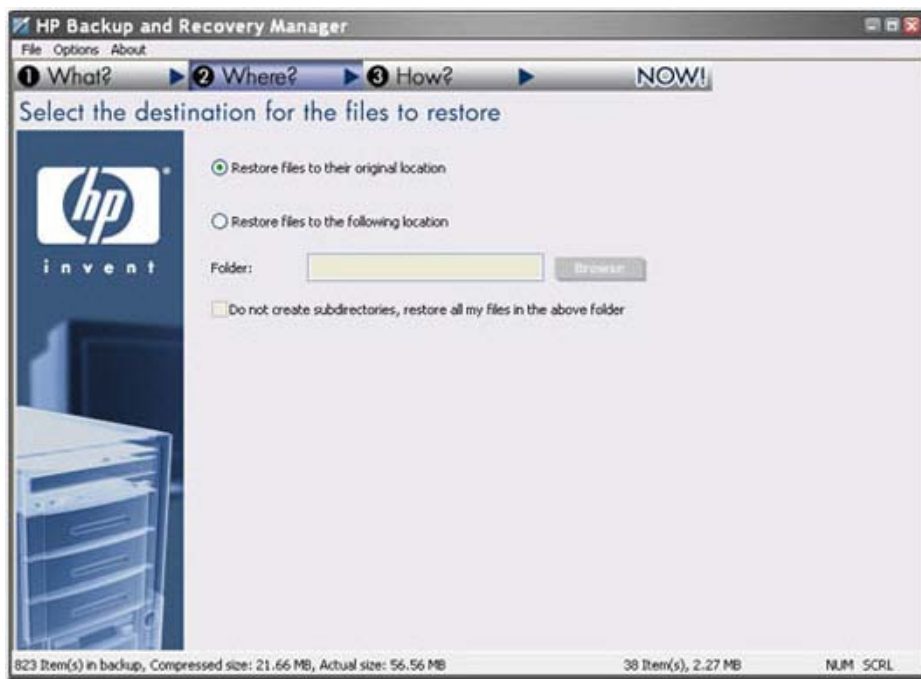
9. **[Start]** (開始) をクリックして復元を開始します。
10. **[Advanced mode]** (詳細モード) を選択した場合、ファイル エクスプローラ ウィンドウで開くバックアップファイルを選択し、**[OK]**をクリックします。パスワード ダイアログ ボックスが開きます。
11. バックアップがパスワードで保護されている場合、そのバックアップ ファイルを開くために必要なパスワードを入力し、**[OK]**をクリックします。すべてのバックアップ ファイルをパスワードで保護できます。



12. 復元するファイルに移動するか、一般的なファイルの種類と場所を使用して復元します。

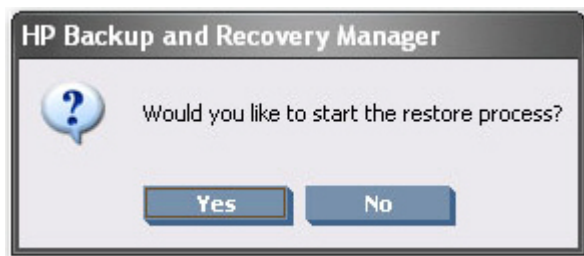


13. ファイルを元の場所に復元するのか、特定のフォルダに復元するのかを選択し、[次へ]をクリックします。



14. 重複するファイルが見つかったときの処理方法を選択し、[次へ]をクリックします。

15. [Yes] (はい) をクリックして復元を開始します。

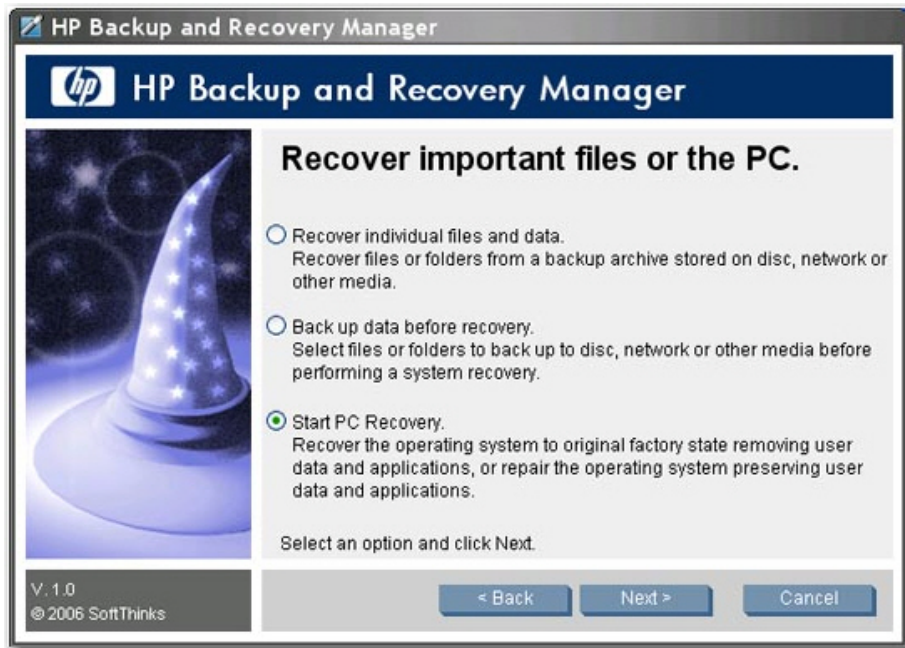


コンピュータのリカバリ

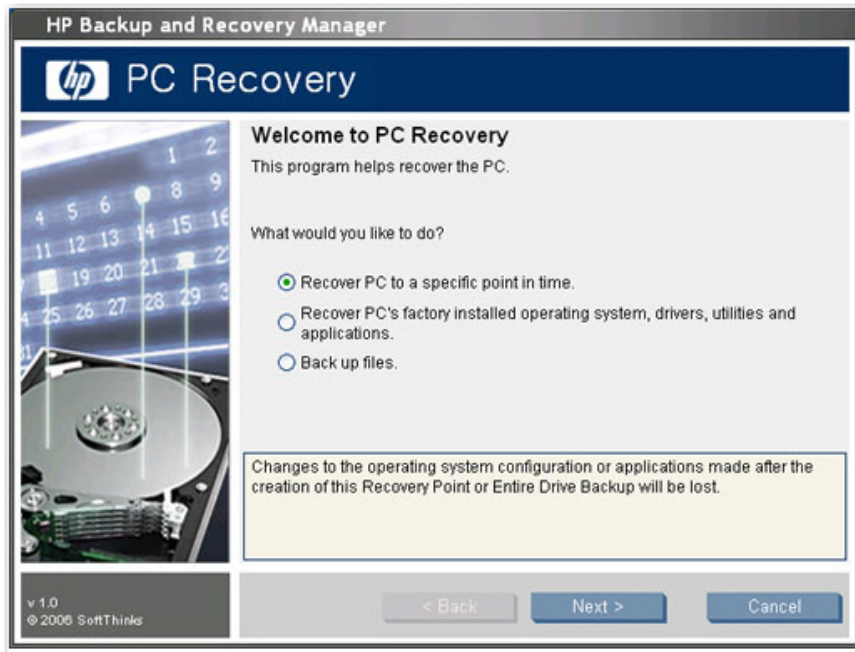
コンピュータのリカバリを使用して、コンピュータを再セットアップしたり、ユーザのファイルとアプリケーションを消去しないでオペレーティング システムを修復したりできます。

リカバリ プロセスは、リカバリ パーティションが存在するかどうかによって異なります。リカバリ パーティションが存在しない場合、リカバリ プロセスにリカバリ ディスク セットが必要です。

[Recover Important Files or the PC] (重要なファイルまたはコンピュータの復元) ウィンドウで[コンピュータの復元を開始する]を選択した場合、以下の手順で操作します。



1. リカバリ パーティションが存在するかどうかに関係なく、システムを再起動する必要があります。リカバリ パーティションが存在しない場合、リカバリ ディスク セットの最初のディスクを挿入し、**[次へ]**をクリックしてシステムを再起動します。システムを再起動すると、システム リカバリ オプションにアクセスできるように WinPE 環境でシステムが起動します。
2. システムの再起動後、特定の時点の状態に復元するのか、コンピュータを再セットアップするのか、またはファイルをバックアップするのかが選択します。

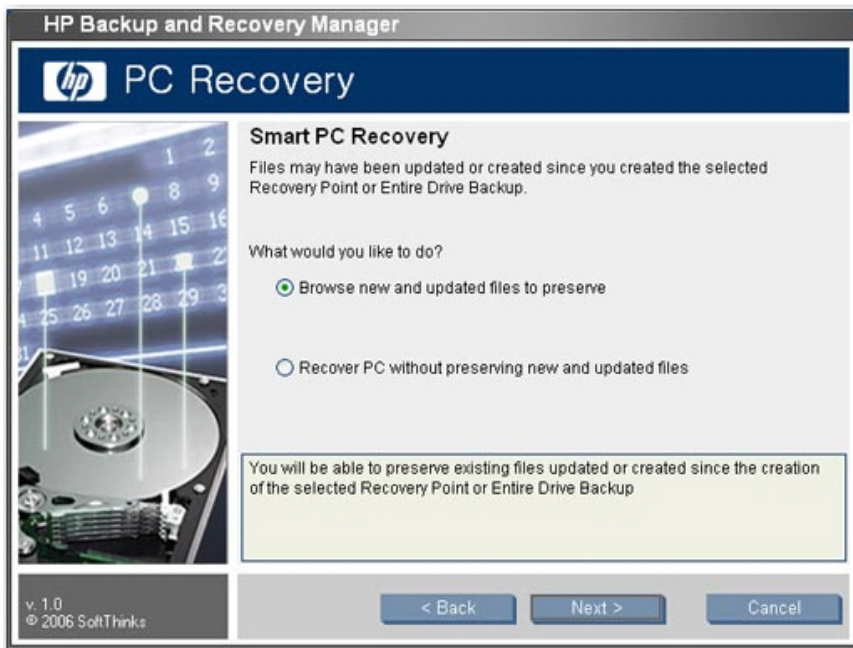


- a. [コンピュータを特定の時点の状態に復元する]を選択した場合、[次へ]をクリックして手順3に進みます。
- b. [Recover PC's factory installed operating system, drivers, utilities, and applications] (コンピュータの工場出荷時にインストールされたオペレーティングシステム、ドライバ、ユーティリティ、およびアプリケーションを復元する)を選択した場合、ウィザードの説明に沿ってコンピュータを再セットアップします。
- c. [ファイルをバックアップする]を選択した場合、ファイルバックアップウィザードの説明に沿って操作します。

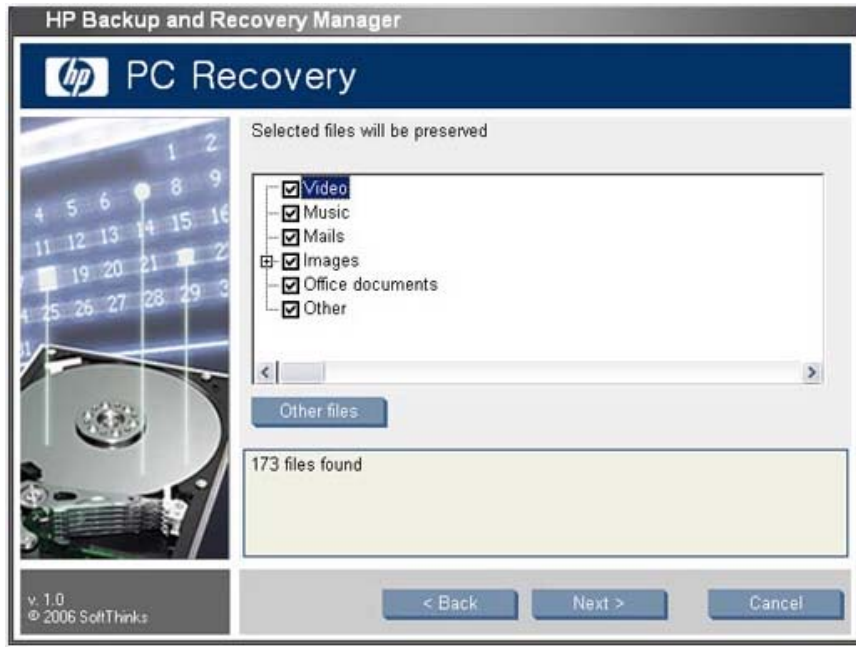
3. コンピュータの復元に使用するリカバリ ポイントまたはドライブ全体のバックアップを選択します。



4. 最近のリカバリ ポイントを選択して、そのリカバリ ポイントが作成された時点にコンピュータを復元する場合、選択したリカバリ ポイントより後のすべてのリカバリ ポイントは、ハードディスクドライブから削除されます。選択したリカバリ ポイントより前のリカバリ ポイントは削除されません。[Yes] (はい) をクリックし、[OK] をクリックしてリカバリ プロセスを開始します。
5. 最後に作成したリカバリ ポイントを選択した場合、ハードディスク ドライブを参照して保存するファイルを選択するかどうかを選択し、[次へ] をクリックします。



6. ファイルの保存を選択した場合、システムによってファイルがロードされた後に保存するファイルの種類を選択し、[Other Files]（その他のファイル）をクリックしてハードディスクドライブを参照し、ファイルを選択します。[次へ]をクリックします。



7. [Yes]（はい）をクリックしてリカバリを実行することを確定します。
8. リカバリの完了後、[Restart]（再起動）をクリックしてコンピュータを再起動します。リカバリプロセスの完了後は再起動する必要があります。

復元と名前の重複

HP Backup and Recovery Manager によって作成されたバックアップは、そのバックアップが作成されたシステム上でのみ復元するためのものです。ただし、HP Backup and Recovery Manager メディアを他のコンピュータに復元できます。HP Backup and Recovery Manager では、オペレーティングシステムを制御しないので、名前、IP、SID などの重複を避けるための処理は実行されません。

オペレーティング システムは HP Backup and Recovery Manager によって制御されません。

オペレーティング システムの PID

オペレーティング システムの PID に関するメッセージは表示されません。

ファイルを復元するためのファイル エクスプローラ

HP Backup and Recovery Manager では、個別のファイルを復元できます。詳細モードには、「個別のファイルとフォルダ」バックアップを検索して復元するためのファイル エクスプローラ形式のインターフェースがあります。

両方向でのフィルタ

リカバリとファイルのバックアップに対して両方向でフィルタ処理を実行できます。フィルタ処理のオプションは、バックアップとリカバリの種類によって異なります。ドライブ全体のバックアップおよびイニシャル リカバリ ポイントにはフィルタ処理のオプションがありません。リカバリ ポイント

および「個別のファイルとフォルダ」バックアップには、個別にフィルタ処理のオプションがあります。

アンインストール

インストール プログラムには、アプリケーションをアンインストールする方法が用意されています。

削除される項目

HP Backup and Recovery Manager をアンインストールすると、すべてのコンポーネント、機能、リカバリ ポイント、ドライブ全体のバックアップ、およびリカバリ パーティションがシステムから削除されます。ファイルバックアップは、独立した実行可能ファイルですので、アンインストールの影響を受けません。アプリケーションを再インストールするには、リカバリ ディスク セットまたは元のアプリケーション CD が必要です。



注記： リカバリ ディスク セットを作成してから HP Backup and Recovery Manager をアンインストールすることをおすすめします。これによって、リカバリ パーティションに存在する可能性がある Microsoft Windows CD、HP Restore Plus! CD、および追加 CD を保護できます。

アプリケーションのアンインストール

HP Backup and Recovery Manager をアンインストールするには、[コントロール パネル]→[プログラムの追加と削除]に移動します。

1. Windows の[スタート]メニューを開きます。
2. [コントロール パネル]を選択します。
3. [プログラムの追加と削除]をクリックします。
4. [HP Backup and Recovery Manager]を選択します。
5. [削除]をクリックします。
6. ウィザードの説明に沿って操作し、アンインストールを完了します。

上級者オプション

HP Backup and Recovery Manager には、上級ユーザが以下のバックアップおよびリカバリのオプションに直接アクセスするための上級者モードが用意されています。

- **[Create system recovery discs]** (システム リカバリ ディスクを作成する) : Recovery Media Creator を使用して CD または DVD でリカバリ ディスク セットを作成します。
- **[Backup entire hard drive]** (ハードディスク ドライブ全体をバックアップする) : ドライブ全体のバックアップを作成します。
- **[Backup individual files and data]** (個別のファイルとデータをバックアップする) : ネットワーク、ハードディスク ドライブ、またはディスク上にファイルバックアップを作成します。
- **[Create or manage recovery points]** (リカバリ ポイントを作成または管理する) : ネットワークまたはハードディスク ドライブへのリカバリ ポイントの作成、既存のリカバリ ポイントの削除、および CD または DVD への既存のリカバリ ポイントの移動を実行します。

- **[Schedule backups]** (バックアップをスケジュール設定する) : リカバリ ポイントおよびドライブ全体のバックアップのスケジュールを作成します。



注記 : ファイルバックアップのスケジュール設定は、スケジューラではなく、ファイルとフォルダのバックアップオプションを使用して実行されます。

- **[Recover individual files and data]** (個別のファイルおよびデータを復元する) : ファイルバックアップに保存されているファイルを復元します。
- **[Start PC Recovery]** (コンピュータの復元を開始する) : リカバリパーティションからコンピュータを再起動し、イニシャルリカバリポイントおよび後続のリカバリポイントを使用して復元します。

索引

- D**
Desktops
 自動インストール 8
 スケジュール 3
 ソフトウェア 7
Desktops バージョン 3
- E**
EFS 6
- H**
HP 3-in-1 NAS ドッキングステーション 6
HP Backup and Recovery Manager の管理 9
- I**
ISO イメージ 20
- P**
PID 31
Portables
 自動インストール 8
 スケジュール 3
 ソフトウェア 7
Portables バージョン 2
- R**
RAID 14
Recovery Media Creator 17
Rescue CD
 バージョンの相違 6
- S**
Safeboot
 バージョンの相違 6
- W**
Windows PE (Pre-Installation Environment) 5
- あ**
アジア言語のサポート
 バージョンの相違 6
圧縮 11
アンインストール 32
アンインストール時に削除される
 ファイル 32
暗号化
 バージョンの相違 6
- い**
イメージ 7
イメージの復元 21
インストール
 バージョンの相違 6
 複数のパーティション 8
 プリインストールされていない
 システム 7
- お**
オフラインバックアップ 13
オペレーティングシステム 17
オペレーティングシステムの
 PID 31
- か**
カスタマイズ 11
カスタム イメージ 7
- き**
機能の無効化 11
機能の有効化 11
機能
 有効化と無効化 11
- く**
クワッドバイトのサポート
 バージョンの相違 6
- こ**
異なるシステムへの単一バージョン
 の導入 8
個別ファイルの復元 21, 23,
 31
コンピュータのリカバリ 20, 27
コンポーネントの保存 15
- し**
自動インストール 8
手動バックアップ 15
上級者オプション 32
- す**
スケジュール規則 10
スケジュール
 バージョンの相違 6
スケジュール設定されたバックアップ
 プ 14
- せ**
セクタ バックアップ 13
- そ**
ソフトウェアのオプション 7
- た**
帯域幅の制限 14
- つ**
通知の無効化 12
通知 12
- と**
導入 8
ドッキングステーション 6
ドライブ全体のバックアップ 4
- は**
バージョンの相違 6

- バージョン 2
- パスワード 10
- バックアップの種類 3
- バックアップの整合性 14
- バックアップ
 - オフライン 13
 - および RAID 14
 - 手動 15
 - スケジュール設定された 14
 - 整合性 14
 - セクタ 13
 - 帯域幅の制限 14
 - ファイル単位 13
 - フェールオーバー 14
 - 保存場所 14

ふ

- ファイル エクスプローラ 31
- ファイル単位バックアップ 13
- ファイルの場所 7
- ファイル バックアップ 4
- フェールオーバー、バックアップ 14
- 復元と名前の重複 31
- 復元方法 18
- 復元 16
- 複数のパーティション 8

ほ

- 保存場所、バックアップ 14
- ポリシー 10

め

- メディア、リカバリ 17, 19

り

- リカバリ ディスク セット 17
- リカバリ パーティションの削除 19
- リカバリ パーティションの表示 16
- リカバリ パーティション
 - 削除 19
- リカバリ ポイント
 - 作成場所 16
 - 表示 16
- リカバリ メディアの作成 19
- リカバリ メディア 17
- リカバリ 16
- 両方向でのフィルタ 31